



AUE News

2011年5月1日

第 15 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目次

● 行事予定(5月1-15日)

● トピックス

- ・宇宙4次元投影システム披露会
- ・東日本大震災チャリティー上映会
- ・名東高校、鈴鹿高校が本学を見学
- ・「大学案内」の写真撮影
- ・米国NY州立大フレドニア校から千羽鶴

・天文台一般公開

・本学と静岡大が共同博士課程設置へ向け調印

・教員採用試験願書作成ガイダンス

・結晶の不思議展

● お知らせ・報告・投稿

・高橋利幸さん中国留学記③

・教育創造開発機構紀要を発刊

・催しもの案内

行事予定(5月1-15日)

- 9日(月) 教務企画委員会(16:40～ 第二会議室)
学生支援委員会(16:40～ 第五会議室)
- 10日(火) 役員会(13:00～ 学長室)
- 11日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30～ 大学会館中集会室)
代議員会(13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会(代議員会終了後～ 第五会議室)
- 14日(土) 愛知学長懇話会(13:00～ 第五会議室)
- 15日(日) 子どもまつり(9:00～ 第一共通棟、体育館ほか)

トピックス

宇宙4次元投影システム披露会(4/1)



本学の科学・ものづくり教育推進センター「天文教育講座」は、立体的に宇宙旅行が楽しめる「宇宙の4次元立体映像投影システム」を開発し、4月18日(月)午後5時30分から、自然科学棟5階547教室で教職員を対象にした披露会を開催した。

このシステムは、国立天文台がホームページなどで配信している宇宙の3次元立体映像「M i t a k a」に時間変化を加えて表示するもの。2台のコンピューターと2台のプロジェクターで右目用、左目用の映像を、3D映像を投

影する専用のスクリーンに映し出し、偏光メガネで見ることで、リアルな立体映像が見られる。その映像を、ゲームソフトと同様のコントローラーで操作すれば、宇宙旅行をしているように楽しめるのが特徴。

この日参加したのは20人余で、目の前に現れたリアルな宇宙映像に「うわ〜」と思わず歓声が上がった。地球、月、土星など銀河系を巡る“宇宙旅行”を30分ほど楽しんだ。

システムを開発した同センター長の澤武文教授は、「今後は、天文台の一般公開などに利用していきたい」と利用目的につい



て述べ、操作を担当した澤研究室の4年生の学生は「ゲームのコントローラーで映像を動かせるので、ゲームができれば操作も簡単です」と話した。

東日本大震災チャリティー上映会(4/18)

東日本大震災で被災したろう者の状況を伝えようと「東日本大震災チャリティー上映会」が4月18日(月)午後6時から、障害児教育棟1階511教室で行われた。

上映会では、本学卒業生で、映像作家、CS放送「目で聴くテレビ」のディレクターとして活躍する今村彩子さん(名古屋市緑区在住)が被災地取材した「架け橋～東日本大震災 宮城の被災ろう者は今～」と題した29分の映像を公開。宮城県ろう者協会が安否確認に奔走する模様、岩沼市では津波で自宅が全壊して避難所で暮らすろう者などを取材し、情報が伝わらず、避難することさえ知らされなかったり、避難所でも周りに迷惑をかけたくないと遠慮がちに生活するなど、被災地で孤立する現状を伝えている。さらに、余震の中で、ろう者を支援しようとする人々もレポートし、「共に生きる社会」や「人の前向きに生きる力」「立ち上がる人たちの絆」にもスポットを当てている。



上映の後は、「取材を通して感じたこと」をテーマに、今村さんが震災後の宮城県など東北4県を2度にわたって訪れた感想などを手話で語った。聞き手の岩田吉生准教授(障害児教育)が「取材で苦労したことは」「子どもたちの様子は」「どうい

サポートが必要か」など質問をすると、今村さんは、「心のケアが大切」「情報を得られる社会が必要」などと述べた。この日、参加したのは学生、教職員、学外のろう者や手話通訳者など約40人。ろう者の現状や支援についての質疑応答も行われた。なお、上映会の参加費は1000円以上のカンパとして寄せられ、全日本聾唖連盟災害救援基金に贈られた。



名東高校、鈴鹿高校が本学を見学(4/19、28)



名古屋市立名東高等学校の2年生40人が4月19日(火)午前、本学を訪れた。

バスで到着した高校生たちは、本部棟第五会議室で、大学の概要や入試、授業についての説明を法人運営課、入試課、教務課の職員から1時間ほど聞き、質疑応答では「放射線を扱う施設があるのか」などの質問も飛び出した。その後、附属図書館や共通棟、体育館、美術実習棟などを見学し、生協で昼食をとるなどして、ちょっぴり大学生活も体験。

帰り際には、パラパラと雨が降り出したが、高校生たちは「面白かった、ありがとうございました」と笑顔で、同行した職員にあいさつした。中には「僕は先生になりたいと思っているので、愛知教育大学に入りたいと思った」と言う生徒もいて、手を振って本学を後にした。

また、28日(木)には、三重県から私立鈴鹿高等学校の2年生60人が来学。第五会議室での大学の説明では、高校生たちは大学案内にメモをとるなど、職員の話に熱心に耳を傾け、「教員の1種免許、2種免許の違いがよく分からない」「情報では、どんなことが学べるの



か」などと質問。説明の後は、図書館など施設を見学、生協での昼食を取るなどして、大学の雰囲気味わった。

「大学案内」の写真撮影(4/20)

高校生やその保護者に配布する大学広報誌「大学案内」2012年版の写真撮影が4月20日(水)、学内各所で行われた。

午前中には、表紙写真を第一・第二共通棟などを背景に撮影。強風でモデルの学生の髪が乱れたり、曇りがちの天候に照明を工夫したりと、プロのカメラマンも苦戦。予定時間を延長したものの、新緑のキャンパスにたたずむ、さわやかなイメージの写真をカメラに収めた。



午後には、松田正久学長と学生が和やかに語り合うシーンや、クラブ活動の様相なども撮影された。

大学案内2012年版の編集は大詰めに入っており、6月15日には完成の予定。昨夏のオープンキャンパスの動員が大幅に増加したことを考慮して、前年より3000部多い、2万1000部を作成予定。本学見学や大学説明会、オープンキャンパスで配布される。

米国 NY 州立大フレドニア校から千羽鶴(4/21)



本学協定校の米国ニューヨーク州立大フレドニア校から、日本の大震災を見舞い、復興を願う千羽鶴が4月22日(金)、本学の松田正久学長宛に届いた。

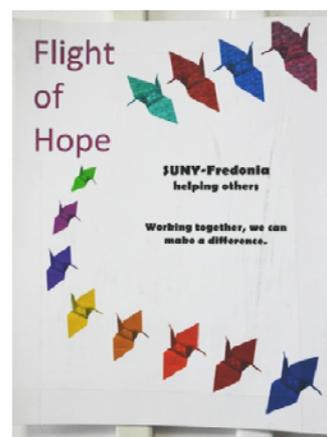
大人がひと抱えするほどの大きな段ボール箱の中には、色とりどりの紙で折られた千羽鶴が糸で連にされて、丁寧に詰められており、フレドニア校の Dennis L. Hefner 学長から松田学長にあてた手紙が添えられていた。

Enclosed are 1,000 origami cranes folded by members of our faculty and staff. As a partner university, our campus sends you these cranes to show our support for your university, for your faculty and staff, and for the people of Japan as you begin the recovery from the devastating earthquake and tsunami. We hope this gift helps to the life the spirits of your entire university. — (一部抜粋)

フレドニア校では“Flight of Hope”プロジェクトを立ち上げ、国際赤十字社を通じての寄付活動などが展開されているとも記されている。

松田学長は「本学では地震の影響がなかったが、心配していただいた気持ちはありがたい。学生たちの目に触れる場所に飾りたい」と感謝の気持ちを表し、学長室で撮影した千羽鶴の写真を添えて、Hefner 学長へ英文の令状を送った。

贈られた千羽鶴は現在、学生サポートセンターと、国際交流センターのある学生会館に分けて展示されている。



天文台一般公開(4/23)

本学の天文台で「第62回一般公開」が4月23日(土)午後6時から自然科学棟5階で行われた。今回は「子どものための講座と観望会」と題して、初めて子どもを対象にした開催で、雨にもかかわらず、親子連れから天文マニアまで30人余が参加した。

午後6時からの「子どものためのミニ天文講座」のテーマは「太陽系のなかまたち」。澤武文教授が太陽の周りを回る惑星を紹介し、それぞれの惑星の成り立ちや大きさ、温度などの特徴を

各国の探査衛星がとらえた映像を交えて説明した。また、太陽と8個の惑星の大きさや距離感を実感してもらおうと、太陽系を10億分の1に縮めた模型「ナノ太陽系」を使って解説。子どもだけでなく、大人もメモをとるなどして、熱心に講義に聞き入っていた。

午後7時からの観望会は雨のため中止し、代わって、宇宙の4次元映像を上映。国立天文台のサイトから利用できる宇宙のシュミレーション映像「Mi



taka」を2台のプロジェクターで立体映像用のスクリーンに投影し、偏光メガネを通して見ることで、まるで宇宙を自由に移動するような感覚が楽しめ、参加者から驚きの声が上がった。地球を離れ、土星や木星を巡る“宇宙旅行”を約1時間楽しんで、この日の一般公開は終了した。

なお、次回の一般公開は5月21日(土)午後2時から。大学祭開催特別企画として、「昼間の恒星観望会」午後6時から「大人のためのミニ講座」午後7時から「土星観望会」が予定されている。



本学と静岡大が共同博士課程設置へ向け調印(4/25)

本学と静岡大学は、地域の知の拠点として、魅力ある教育研究及び人材育成の推進を図ることを目的に、共同大学院博士後期課程(教科開発学専攻)を設置するための準備として、4月25日(月)、浜松市内のホテルで協定を締結した。



この大学院は、「それぞれ優位な教育研究資源を集集し、より魅力ある教育研究を実現すること」「教育学部系では全国で初めて『共同』による大学院運営を行うこと」「東海地区における『高度な専門知識を備えた教育リーダーの養成』を行うこと」「授業は、基本的に土曜日、日曜日、夏休みなどの長期休暇を利用して開講するため、現職の教員でも休職することなく授業を受けることができること」に特色がある。定員は1学年8人を予定。

松田正久学長は、「東海地区の教育学部で1,2番目に大きい両大学が、それぞれの人材や持ち味を生かし、教員養成の研究者、教育現場のリーダーとなり得る人材を輩出できるような大学院を、2012年度を目標に設置したい」と挨拶。また、静岡大学の伊東幸宏学長も、「大学の社会的な役割を果たすために、大学が連携して取り組むことは重要」と意気込みを語った。

今後は、本協定に基づき、教員養成分野における両大学の強みを生かした共同大学院設置に向けて精力的に計画を進めることを松田、伊東両学長が確認し、固く握手を交わした。

(総務課長 濱田泰栄)

教員採用試験願書作成ガイダンス(4/27)

今年7月に実施される愛知県および名古屋市公立学校教員採用試験を受験する学生を対象にした「教員採用試験願書作成ガイダンス」が4月27日(水)午後1時30分から、大学会館2階大集会室で行われた。

教員採用試験の願書の書き方などを本学OBが講師となって指導する、本学独自の取り組み。

前半は名古屋市の教員採用試験についてのガイダンスで、約90人が参加。採用の区分や特例事項についての説明をはじめ、「文字は丁寧に」「受付期間に余



裕をもって提出する」などの細かな注意がなされた。中でも、志望の理由欄については「教師になりたいという思いを照れずに、しっかりとした文章で書き込む。人と同じような文章は書かない。ここは力を入れて、時間をかけて、文章を練りこんで取り組んでください」との注意があり、学生も真剣な表情で聞き入っていた。

質疑応答では、多くの学生から質問があり、特別支援学校の希望の有無が採用に影響するのかの質問には、「特別支援教育が大切だという思い、自分が何をしたいかのポリシーを語ればよい」など、講師から具体的なアドバイスが行われた。

午後3時からは、愛知県の教員採用試験についてのガイダンスがあり、約320人が受講した。

結晶の不思議展(4/27-5/16)



附属図書館アイ♥スペースで「結晶の不思議展」が4月27日(水)から始まった。5月16日(月)まで。

この展覧会は本学の科学・ものづくり教育推進センターが主催。形が面白い天然の結晶(鉱物)97点を、テーマ別に展示し、紹介している。

テーマは「不思議な結晶の世界」「植物に似た結晶」「菌類に似た結晶」「動物に似た結晶」など九つ。一

般的な結晶のでき方、分類の解説をはじめ、バラや菊の花、松茸やサボテン、蛙の目やゼブラなどユニークな色や形をした鉱物が一堂に展示されている。

展示品は、同センターの佐々田俊夫研究員のコレクションで、研究と趣味のために約20年間で集めた約2000個の中から、形にこだわって選んだ。「展示期間には、5月15日の『子どもまつり』もあり、見るだけで楽しめるがコンセプトです。震災もあり、子どもたちに楽しんでもらいたいと企画しました」と佐々田研究員。

入場無料。開館時間や内容については同センターホームページを参照。

<http://www.step.aichi-edu.ac.jp/crystal.html>



お知らせ・報告・投稿

高橋利幸さんの中国留学記③

東北師範大学では3月1日から新学期がスタートしました。今学期のクラスは14人でアメリカやロシア、北朝鮮などいろいろな国の人がいて放課中などはみんなでそれぞれの文化を紹介するなど様々な国の文化を学んでいます。

4月に入ってから卓球の試合が2回あり、どちらにも参加させてもらったのですが、中国の国技だけあって、普通の学生のレベルも高くびっくりしました。来月にも吉林省主催の卓球大会が開かれるので参加する予定です。4月16日に行なわれた留学生と東北師範大学の学生の卓球試合について紹介します。

今回行なわれた試合には男子がおよそ50人、女子は20人ほどが参加しました。さまざまな国の人が参加し、試合と試合の間にはさまざまな交流があり、普段クラスが違い関わることができない人達とも話すことができたので、とても有意義で楽しかったです。

東北師範大学では卓球だけでなくさまざまなスポーツ行事が行なわれ、留学生同士の交流、そして東北師範大学の学生との交流も盛んです。中国に来てから強く思うようになったのはスポー





ツを通して、さまざまな人達と知り合うことができ、そこからまた新しい交流が始まっていくということです。最近は試合を通し中国人の友達がたくさんでき、毎日ご飯を食べたべたり、一緒に勉強したりと忙しいのですが充実した日々を過ごしています。

(現代学芸課程国際文化コース 2年 東北師範大学留学中 高橋利幸)

教育創造開発機構紀要を発刊(報告)

教育創造開発機構の編集・発行による『教育創造開発機構紀要 創刊号』が、さる3月31日付で発刊されました。その経緯や発刊の趣旨は学長の巻頭言をお読みください。もともと本紀要は電子媒体のみの発刊ですが、創刊号のみ冊子体で印刷し、投稿者等学内者のほか学外の関係機関に寄贈しました。

構成は「学术论文」「研究ノート」「実践報告」からなっていて、「学术论文」は査読審査で可とされた論文だけを掲載しております。また、本学の教員養成の役割や教育現場との深いつながりに基づく多様な研究もきちんと受け止める趣旨から、研究過程を跡づける公表の場としての「研究ノート」、教育実践記録等を収録する「実践報告」の章を設けています。

それぞれ力作・労作がそろいましたので、ぜひお読みください。

アクセスの仕方は、本学ホームページの「附属・センター」から「図書館」に入り、左上の「愛教大リポジトリ」ボタンをクリックして一覧から「機構紀要」を選んでください。

編集委員長をのぞく、各センターから選任された計9名の編集委員の方々、約一年にわたり重要な編集作業にご尽力いただきまして、ありがとうございました。

(教育創造開発機構紀要編集委員長、総務担当理事 折出健二)



催しもの案内

◆第42回子どもまつり

5月15日(日) 9:00~15:30 (受付は教務課前で、14:30まで)

第一共通棟、第一・第二体育館など。入場無料。

- ・近隣の子どもたちを招いて、学生と一緒に楽しく遊ぶ、本学の一大イベント。
- 詳細は「子どもまつり」ホームページを参照。

http://www.aichi-edu.ac.jp/gakusei/kodomo_fes/

◆第42回大学祭

5月18日(水)~22日(日)

第一共通棟、第一・第二体育館など。入場無料。

- ・コンサートや模擬店など、多彩な企画を展開。
- 詳細は「大学祭」ホームページを参照。

<http://www.aue-festival.aichi-edu.ac.jp/>

◆劇団把夢第98回大学祭公演

5月21日(土) 11:00~、14:30~

5月22日(日) 11:00~

大学会館2階 入場無料

- ・演目「ムゲンモラトリウム」(脚本・演出:藤本康平)
- 詳細は「把夢」ホームページを参照。

<http://www.geocities.jp/gekidanpam/>

編集後記

本学 OG の今村彩子さんが取材した震災被災地の映像から、平常時でも不自由な生活をする聴覚障害の人々は、さらに困難な状況に置かれていることが分かりました。避難警報さえ伝わらず、避難所でも意思の疎通が困難で、その不安は想像を超えるものでした。そして、今村さんの使命感と行動力にも感動させられ、より多くの人にこの映像を見てもらいたいと思いました。今村さんは「要望があれば上映したい」とのことですので、ご希望の方は、「Studio AYA」の下記のホームページ(<http://studioaya.com>)に、お問い合わせください。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二